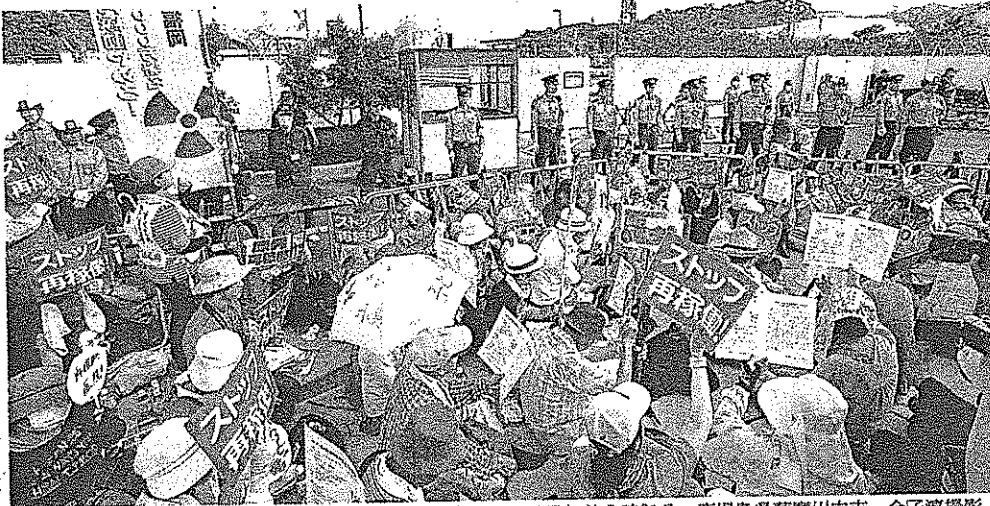


道く遠の口ゼ原発原

地元「命を軽視」「経済期待」

原発ゼロに再び下りた11日、再稼働した九州電力川内原発（鹿児島県）の地元では、期待の声が上がる一方で、抗議活動が繰り返された。かつての原発推進者もなし崩しの原発回帰に警鐘を鳴らす。次の再稼働をにらみ原発を抱える福井や愛媛の住民からも不安の声が漏れる。

▼1面参照



川内原発正門前に座り込み、再稼働反対を訴える人たちは11日午前8時31分、鹿児島県薩摩川内市、金子淳撮影

「福島を忘れないで」「九電は命を軽視している」。川内原発の正門前には11日早朝から、再稼働に反対する市民ら約2000人が集まり、順番にマイクを握った。

母親、子ども、大学生……。抗議行動には地元住民のほか、各地から多様な人たちが加わった。市域の一部が原発30号機に入る鹿児島市の看護師、戸島江里香さん(29)は1歳半の長男を預けて参加した。薩摩川内市の出身。「今の科学で予測できる地震や津波を上回る災害が起きるかもしれない」

「事故の想定も避難計画も不十分。こんな状態でよくも再稼働できるものか」

日本原子力発電元理事の北村俊郎さん(70)は言う。川内原発の再稼働は、東京電力が15・7兆の津波を試算しながら福島第一原発の対策を怠った態度と重なる。「政権も根柢なく『世界最高の規制基準』と説明している。安全神話にすぎない」と批判している。

高浜・伊方進む審査

川内原発の次に再稼働の手続きが進んでいるのは関西電力高浜原発3、4号機（福井県高浜町）だ。2月に原子力規制委員会が安全対策の基本方針を許可し、11月の再稼働をめざして残りの認可手続きが進む。

高浜町の野瀬町長は11日、「国のエネルギー基本計画でも重要なベースロード電源とされる原発の一つが現実的に動いたことを評価したい」と川内原発の再稼働を歓迎した。一方で、新規基準の施行から再稼働まで約2年を要したことに「時間がかかり過ぎ。もう少し効率的にやり方があるのではないかと」述べ、審査の迅速化を求めた。

ただ、高浜3、4号機は福井地裁が4月に運転差し止めを仮処分決定を出しており、関電の保全費が認められないと再稼働はできない。仮処分を申し立てた住民側事務局長の松田正幸(66)は「こんな暑い夏でも原発なしで電気は足りている。壊れるリスクがある原発を動かす理由が理解できない」と述べた。

約10名の薩摩川内市中心部。高浜3号機も、7月に規制委が安全対策の基本方針を許可した。地元同意が得られれば今冬にも再稼働する可能性がある。

中村時広知事は11日、地元同意について「地元での議論や四国電力による追加安全対策への取り組みの状況を注視し、総合的に判断する」との考えを示した。

伊方原発は細長い半島の付け根にあり、先端側の住民(最大約5千人)が海路で避難する計画もある。「八幡浜、原発から子どもを守る女の会」代表の斎間淳子さん(71)は「地震で道路も港も使えなくなったから、どう逃げるのかわからない」と疑問を呈した。

止める手段いくらでも

脱原発求める弁護士 脱原発弁護団全国連絡会代表の河合弘之弁護士(第二東京弁護士会)は「脱原発を求める人たちは、再稼働するからといって気落しする必要はない。動いた後でも止める法的手段はたくさんある」と話す。

4月に関西電力高浜原発の運転を差し止めた福井地裁の仮処分決定で、住民側弁護団の共同代表を務めた。福島第一原発の事故をめぐり、当時の東電会長らを告訴・告発した被災者らの弁護団長でもある。「想定外はもう通用しない。事故を起こせば、必ず刑事告訴して株主代表訴訟も起こす。覚悟してやれ、と九電に言いたい」と語った。

「安全神話にすぎない」

福島で被災した日本原電元理事

「事故の想定も避難計画も不十分。こんな状態でよくも再稼働できるものか」

日本原子力発電元理事の北村俊郎さん(70)は言う。川内原発の再稼働は、東京電力が15・7兆の津波を試算しながら福島第一原発の対策を怠った態度と重なる。「政権も根柢なく『世界最高の規制基準』と説明している。安全神話にすぎない」と批判している。

国内で初めて原発を動かした原電で人事部長や社長室長を歴任。退職後は業界団体の日本原子力産業協会の参事を務めた。原子力業界の中核に40年。その体質も問題点も知り尽くす。推進してきたその原発が起した大事故で、家を追われた15万人の1人になった。

「原発の再稼働は、東京電力が15・7兆の津波を試算しながら福島第一原発の対策を怠った態度と重なる。『政権も根柢なく『世界最高の規制基準』と説明している。安全神話にすぎない』と批判している。」

現在在は須賀川市の借上げ住宅に暮らす。帰還困難区域にある自宅に戻れるのか。先月末一時帰宅すると、雑草だらけの庭の所々にイノシシに掘り返された穴が開いていた。

世論調査で反対が多数でも、政権は再稼働を押し進める。「安保法案の進め方と同じ。国民を甘く見ている。一避難者として憤る。」

一方、かつての推進者として自賣の念が消えることはない。事故の後、住民説明会で重大事故の可能性を聞かれ、「1万年に一回」と答えていた。「もし明日起きたら」。そう返されると、「あくまで確

川内原発
1号機は1984年、2号機は85年に営業運転を開始

14年9月に全国で初めて新規制基準を満たすと認められた。2号機も10月中旬の再稼働を目指している。

15年前、福島県富岡町をついのすみかを選んだ。温暖で電源三法交付金で行政サービス



「深は祭りのノリだけだ。海のなかでは何万のノリのことくらいにするだろう」。

金子みすゞの詩が、東京と福島の対比の風景として頭から離れない。(石川智也)

8/12 朝日